

各単組精一杯の
労使交渉を展開し

2011年春季闘争終結!

全電線 2011年春闘シンポジウム
春闘に向け挨拶をする
海老ヶ瀬中央執行委員長



連合 2011 春季生活闘争・
政策制度要求実現 3・5 中央集会
全電線の仲間も最終局面に向け団結を示す



2011年春季闘争は、経済・社会や産業・企業実態等のとりまく環境を踏まえるなかで、「労働者の雇用の安定・確保と生活の維持・向上」を基本に取り組んできました。2月22日の要求提出以降、3回の交渉を経るなかで、春闘終盤においては山場対策に基づき最大限の交渉を行なった結果、東日本大震災の影響がありながらも、4月1日までにおおむねの単組が集約となり、産別統一闘争のもと一定の役割が果たし得たものと判断します。各単組役員の方々に敬意を表すとともに、中央執行部に対してお協力に深く感謝を申し上げます。

各単組最大限の努力を尽くし 集約に至る！

東日本大震災において、被災されたすべての皆様に対し、
心よりお見舞いを申し上げます。

金属労協の見解について

賃金は、「これまでに回答を引き出したすべての組合で賃金構造維持分を確保することができた。また、1組合で賃金正分を獲得することができた」一時金については、「大半の組合で昨年実績を上回る回答を引き出した。これまでの組合員の協力・努力を粘り強く訴え、精一杯の交渉のなかから引き出した結果と受け止める」企業内最低賃金については、「多くの組合で水準の引き上げを果たした。非正規労働者の賃金の底上げにも寄与するものであり、労働組合として一定の社会的役割を果たすことができた」としています。

全電線の取り組みについて

雇用を守る取り組みについては、「雇用の維持・確保」を最優先すべき最大の課題として位置づけ、経営側に対し引続き最大限の努力要請を行なうとともに、各単組の交渉においても、実態に沿った要請を行ってきた結果、経営側からも「最優先すべき最大限の課題である」との考えが示されるなど、一定の理解が得られたものと判断します。

賃金については、現時点で「定期昇給をはじめとする賃金構造維持分」をすべての単組で確保するとともに、賃金改善については、昨年よりも賃金原資の増額を図れた単組が8単組と増えたことは、世間動向から見ると一定の評価ができるものと判断します。

年間一時金については、各単組の粘り強い交渉の結果、要求水準からは十分とは言えないながらも、過半数の組合で昨年月数以上を確保し、金額については、約7割の単組で増額が図れる結果となりました。また、産別ミニマムを確保する単組についても、昨年より増加したことは、一定の評価が得られるものと判断します。

労働災害特別補償については、これまでの取り組み経過を踏まえ、世間水準確保を基本に統一要求基準を設定し15年ぶりに取り組んできた結果、業務上・通勤途上ともに「死亡・1級～3級」については、統一要求基準に沿った回答が得られ、業務上非退職水準については、これまでの考え方などを踏まえるなかで、約8割の単組で改定に至ったことは、全電線統一闘争としての成果と考えます。

これらのことは、各単組が自力・自決体制を強化し、単組の主体性で、組合員の理解が得られるよう各項目において最大限の努力を行ない、精一杯の取り組みを行なった結果であると確信するとともに、**産別として一定の役割を果たし得たもの**と判断いたします。

最後に、日本の景気が持ち直していくことに期待がされるなかでの、東日本大震災の影響はあまりにも甚大であり、電線産業においても足下や先行き懸念が増す極めて厳しい状況のなかで、長時間に亘る精力的な取り組みを展開された各単組、各役員の皆さんに心より敬意を表するとともに、中央執行部に対する絶大なるご支援、ご協力に深く感謝を申し上げます。